

根尖病変の謎が解ける 1冊



**ゼロから見直す根尖病変
診断・治療コンセプト編**
倉富 覚、著

A4判変/144頁 定価：本体 8,500円＋税
医歯薬出版（2016年10月）

福岡県北九州市・くらとみ歯科クリニック
評・柴原由美子（歯科医師）



デンタルX線写真やパノラマX線写真で根尖病変をみつけたとき、「果たしてこの歯は治るの？」と疑問に思ったことはありませんか？ また、患者さんから「何のために治療しているの？」「そもそも、この治療は必要？」などと尋ねられて困った経験もあるかもしれません。そんなとき、根尖病変に関する知識があれば、すんなり解決できることと思います。

本書は、歯科医師のみならず、臨床力をアップさせたい歯科衛生士の方々にも役に立つ内容が満載です。これまでにない視点で根尖病変をみることができ、臨床力を高めることができます。さらに、著者のユニークなテイストが盛り込まれており、くすっと笑える図や似顔絵、「下川先生至言集」でときおり「はっ」とさせられることがあるのも魅力の1つです。「エンド本」ならぬ、「歯科哲学の本」ともいえ

るかもしれません。それでは、私が本書で特にお勧めしたいポイントを3つご紹介します。

1つ目はChapter 1「根管治療における診査・診断の重要性—デンタルエックス線写真を中心に—」です。規格性のあるデンタルX線写真は圧巻で、「デンタルX線写真のどこを読むのか？何をみるのか？」の診断の項をじっくり読むだけでも、「診る目」を鍛えることができます。日常の臨床でよく見る画像について解説してあるので、これまで疑問に思っていた謎がどんどん解けていくでしょう。

2つ目は、「図、口腔内写真が多い」点です。図や口腔内写真が多いので、文章を読むことが苦手な方でも楽しく学ぶことができます。患者さんから根尖病変について質問されたとき、自分自身が深く理解していないと、うまく説明ができません。そんな場面でも、一度学んで理解しておけば対応ができますし、またチェアサイドで説明する際に本書を用いてもよいかもしれません。

3つ目は、「長期症例の数が多い」点です。「抜かなくても治るんだ」と驚く症例がたくさんあります。また、著者の倉富先生は一般開業医で、1本の歯を守ることに熱いこだわりをもっていらっしゃいます。1枚のデンタルX線写真のなかに写っている歯周病、補綴物に着目すると、また違った気づきがあります。さらに、資料のクオリティの高さから、医院のチーム力を感じることができるでしょう。

本書は、いろいろな意味で“ゼロ”から、根尖病変を見直すきっかけを与えてくれる書籍です。以上のような理由で、歯科衛生士として臨床力をさらに高めたい方にお勧めします。ぜひ、本書を読んで「根尖病変に強い歯科衛生士」を目指してみたいはいかがでしょうか。